

Kaleidoscope

Vol.2

“ 硝煙の向こう側 ”



くろがね ゆう

イラスト：明日 蘭

タバコ

タバコをやめて1年とちょっとが過ぎようとしている。1日平均20本、多いときで30本ほど吸っていたのが、今は吸いたいとも思わない。

もっとも、たいした理由もなく、ただなんとなく吸いだしたのだ。だから初めてタバコを吸ったとき、なんともなかったと同様に、苦しみもせずなんとなくやめることができたのも不思議はない。

タバコをやめて数カ月は、他人の吸うタバコの煙なんて、これっぽっちも気にならなかった。それが3カ月ほどたったころから、少しずつ変化が現れだした。

他人の吸っているタバコの煙が、異常なほどけむく感じられだしたのだ。

半年ほどして、ボクはタバコが嫌いになってしまった。タバコの臭いに敏感に

なり、たとえばエレベーター内に臭いが残っているだけでもノドがいがらっぽくなる。クサイとさえ思うようになったのだ。

けれど、目の前で吸っている人のタバコを取り上げて消したり、嫌煙権を主張するほど、重症ではない。吸うのは吸う人の自由というものだ。

それにしても、吸うマナーの悪い人が多いのには驚かされる。

人の顔に煙を吹きかけたり、まだ食事をしている人がいるのに自分が済むと平気で吸ったり、混雑している路上で歩きながら吸ったり、数え上げたらきりが無い。

これらは、タバコを吸わなくなってから気になりだしたから、きっとボクも吸っていたときはマナーが悪かったにちがいないけど……。

特に最近目立つのは、吸い殻の投げ捨てだ。駅のホーム、交差点の信号付近がもっともヒドイ。灰皿をひっくり返したようにぎやかさ。

これに冬や春先はタン・ツバキが加わり、一層はなばなしくなる。見方によっては、枯れ枝に白や黄色の花びらが散っているように見えなくもない。

が、ちっとも風流でないところが実際の情景と大きくちがっている(ああ、書い

てて気持ちが悪くなってきた)。

今にして思うと、いつかの女子マラソンで、ある外国選手がツバをハンカチに吐いていて、さすがマナーがちがうわいと大騒ぎしたのがウソのようだ。

煙

しかし、タバコというヤツは絵になる。ことにハンフリー・ボガートの映画で効果的に使われている。理屈抜き、カッコイイのだ。

彼のタバコの吸い方を見ていると、「健康のため吸い過ぎに注意しましょう」なんて言葉は忘れてしまう。シブイ男はタバコなんだなあ、ヘンな感心までする。

ボクは、まったく個人的で勝手な考え方だけど、女性はタバコなんぞを吸うもんじゃない、と思っている。どうも女とタバコは合わない。鼻から煙を出した日にゃ、オッサンかと言いたくなる。

が、オードリー・ヘップバーンは例外としたい。

なんという映画だったか忘れたが、酒場で男と話しながら両切りのタバコをつまんで、けむるように吸うオードリーは色っぽかった。

吸い口からこぼれて唇につくタバコの葉を、タバコを持つ手の小指で払いながら話す仕草は、ちょっぴり娼婦的でありながら、可憐な感じがした。

しかも、酒場中に紫煙がたなびいているのに、

オードリーだけクリアに浮き出ているというニクイ撮り方。おそらくたいていの男性客は、このシーンで彼女を好きになってしまったのではないだろうか。

おなじ煙がたなびくシーンでも、白煙がたなびくのは西部劇だ。もちろんそれ以前の時代を背景にした映画なら黒色火薬だから、大砲の1発もぶっ放せば、煙幕をたいたように白煙が立ちこめるが。

ちょっと凝った映画なら、わざわざ現代の無煙火薬ブランクに煙のたくさん出る細工をして使っている。たなびくどころか、もうもうと立ち昇るといった感じだ。

イーストウッドの映画なら「アウトロー」「ペイルライダー」あたりが白煙ムービーだ。

硝煙反応

無煙火薬といっても、煙がまったく出ないわけじゃない。少ないだけで、むしろかなり出るほうとっていいかもしれない。

ただ、その色の印象は、白より青に近い。

リボルバーにしるオートマチックにしる、ライフル、サブマシン

ガンを問わず、装薬銃は射撃によって煙硝煙を発

する。そして、風向きにもよる

が、多かれ少なかれ銃を持った手や顔、



衣服(それも特に袖口など)にその名残を残す。

その一番顕著なのがリボルバーだそう
だ。

そういえば、オートマチックなどはガ
スがほとんど漏れず、排莖のときにエ
ジェクション・ポートから横に吹き出す
のと、銃口から弾丸を追って吹き出すの
くらいだから、ほとんど射手にはガス
硝煙 がかからない。

一方リボルバーはシリンダーとバレル
のすき間から漏れるので、かなりの硝煙
が射手の銃を持つ手にかかる。それも親
指と人さし指に極めて多量の硝煙がかか
るだろうことは、容易に想像できる。

これらの事実に基づいて、硝煙反応が
あるかどうかを調べるテストがあるわけ
だ。

そのテストとは、おおざっぱに言えば、
銃口から前のガスに対するテストと、銃
口から後ろのガスに対するテストに分け
られる。もちろん、それぞれ撃ったのが撃
たれたのかの参考となるのだが.....。

ひとつはパラフィン・テストと呼ばれ
る、銃口より後ろに対するテスト。

被験者の手などに溶かしたパラフィン
をかけ、固まったらはがしてジフェ
ニルアミンという試薬に浸す。もし硝煙
に含まれる硝酸塩が付着していれば、
その部分が青紫色に変色するというわけ
だ。

ページの関係で詳しく書けないが、
銃口より前の硝酸塩に関してはC酸
テストなどがあるという。

ここでピンときたのだが、あの「ロ
ス疑惑」事件で、事件発生直後に被疑
者に対してパラフィン・テストを行って

いたら、あるいは解決をみていたかもし
れない。

一瞬これはいけると思ったものの、ジ
フェニルアミンは硝煙以外の硝酸塩を含
んだものにも反応するし、オシッコにま
で反応するのだそう。キタナイ話だが、
オシッコが手にかかったんだと言われれ
ばそれまでだ。

しょせんシロートの思いつきなんて、
ケムリみたいにハカナイものなのであっ
た。

